

AVニュース エクスプレス

すぐれた芸術・文化活動をサポートする「助成対象活動」募集
「第44回科学技術映像祭」参加作品募集
第29回教育番組国際コンクール「日本賞」グランプリ決定
平成14年度「宮城県自作視聴覚教材コンクール」作品募集

AV情報

■すぐれた芸術・文化活動をサポートする「助成対象活動」募集

日本芸術文化振興会では、芸術文化振興基金及び文化庁の補助金による舞台芸術振興事業の助成対象活動を募集する。

募集対象は、平成15年4月1日から平成16年3月31日までの期間に行われる、芸術・文化に関する団体等が自ら主催して行う活動であり、下記の分野ごとの募集となる。

＜芸術文化振興基金＞

○舞台芸術等の創造普及び活動（音楽、舞踊、演劇、伝統芸能他）／応募受付期間：平成14年12月2日（月）～12月13日（金）

○映画の製作活動（劇映画、記録映画、アニメーション映画）／応募受付期間：[第1回目募集]平成15年1月27日（月）～1月31日（金）、[第2回目募集]平成15

年7月28日（月）～8月1日（金）
○地域の文化振興等の活動（地域文化施設の公演・展示、民俗文化財の保存活用他）／応募受付期間：当該分野は、都道府県を通じての応募となるので、各都道府県の文化行政主管部局に問い合わせのこと。

＜舞台芸術振興事業＞

○音楽、舞踊、演劇／応募受付期間：平成14年12月2日（月）～12月13日（金）

＜問い合わせ先＞

日本芸術文化振興会基金部
〒102-8656 東京都千代田区
隼町4-1 TEL 03-3265-6303
HP <http://www.ntj.jac.go.jp>

コンクール情報

■「第44回科学技術映像祭」参加作品募集

（財）日本科学技術振興財団、
（財）日本科学映像協会、（社）映像文化製作者連盟、（財）つくば

科学万博記念財団の共催による標記映像祭において、優れた科学技術に関する映像を選奨し、科学技術への関心を喚起し、その普及と向上を図ることを目的に参加作品を募集する。

分野は「科学教育」「基礎研究」「科学技術」「医学」「ポピュラーサイエンス」の5部門。参加資格は日本在住の製作者、企画者（スポンサー）、テレビ局、学術研究機関及び個人の製作した作品で、平成14年2月1日～平成15年1月31日までに完成、または放映したものであること。応募締め切りは平成15年1月31日（金）まで。

3月中旬に内閣総理大臣賞1作品、文部科学大臣奨励賞14作品以内を発表する。

参加要綱等の詳細は下記まで問い合わせのこと。

＜問い合わせ先＞

（社）映像文化製作者連盟「科学

ブックレビュー



「学力低下論争」

市川伸一著 筑摩書房
2002年8月刊 新書判 252頁
740円(税別)

「学力低下論争」は、全体像がつかみにくく、誤解されやすい論争である。実は学力低下論争は、学力低下論者と学力低下否定論者という2つの立場の論争ではない。論争の争点は「学力が低下したか否か」ではない。学力低下の有無を直接に明らかにできるデータは存在しない。それでは学力低下論争とはどのような論争なのか。

本書は、学力低下論争の全体像を俯瞰した本である。全体像が描かれているだけではない。さまざまな議論を位置づけ、分析することによって、上記のような誤解が正されている。

筆者の分析によると、この論争は、一つには学力低下を「憂慮」するか「楽観」するか論争である。しかし対立軸はこれだけではない。現在の教育改革路線

に「賛成」か「反対」かという対立軸があり、実はこれが論争の主役である。この2つの対立軸が作る2次元平面の中に3つの立場が存在する。このように理解して、はじめて論争の全貌が見えてくる。そして、影の主役である「教育改革路線に対する賛否」の、さらにその背後には、教育観や基本的な人間観の違いが存在する。「観」の違いの争いならば、この論争はみのりのない論争なのか。いやそうではない。

この論争からどんな教訓が得られ、それをどう生かすことができるか。筆者は「みのりある教育」という方向性を打ち出している。「ゆとりか知識か」という2分法を脱し、論争を生産的に活かす一つの方向性として、これは重要な指摘である。

(道田泰司)

技術映像祭」係

TEL 03-3501-0236

<http://ppd.jsf.or.jp/shinko/pro/s-m/index.htm>

■第29回教育番組国際コンクール「日本賞」グランプリ決定

日本放送協会主催による標記コンクールの「日本賞」グランプリが決定し、去る11月6日(水)NHKホール・放送センターにおいて授賞式、記念コンサート、レセプションが開催された。

同賞は、昭和40年に日本放送協会が放送開始40周年を記念して、教育番組の国際コンクールで、優れた番組を評価し、世界の教育番組の質的向上を図ることを目的に創設されたものである。今年度の受賞作品は次の通りである。

<日本賞>

「時について考える」／カルーナフィルム社(イスラエル)

<文部科学大臣賞>

「世紀を刻んだ歌 イマジン 2001-2002」／日本放送協会(日本)

<外務大臣賞>

「とっておきの物語 飛行機」／韓国教育放送(韓国)

<総務大臣賞>

「ボンビーズ～クラスター爆弾の悲劇～」／ルミエール・プロダクションズ(カナダ)

<東京都知事賞>

「時について考える」／カルーナフィルム社(イスラエル)

<国際交流基金理事長賞>

「世界をむすぶ ジャマイカ～ポート・アントニオの人々～」／チャンネル4テレビ会社(イギリス)

<ユニセフ賞>

「CNNパースペクティブズ フリータウンへの帰還」／CNNインターナショナル&インサイトニューステレビジョン(アメ

リカ&イギリス)

<放送文化基金賞>

「エデュケーション 貧困と教育 第11回」／トマシアンケーブルテレビ(フィリピン)

<前田賞>

「身のまわりの自然～骨格～」／スウェーデン教育放送(スウェーデン)

<最優秀ウェブ賞>

「TVOキッズ・ドットコム」／テレビ・オンタリオ(カナダ)

<優秀ウェブ賞>

「ズーム」／WGBH教育財団(アメリカ)

詳細については下記HPより。

<http://www.nhk.or.jp/jp-prize/main.html>

各地の情報

■平成14年度「宮城県自作視聴覚教材コンクール」作品募集
宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、宮城県視聴覚教育連

トピックス

ワールドエール(株)がビデオ「日本の暦」を47都道府県へ2万4,153本を寄贈

教育用ビデオの企画・制作会社ワールドエール(株)が、平成3年より11年間にわたり全国の中学校等に対し寄贈してきた社会教育用ビデオ「ビジュアル歳時記一日本の暦」が、この10月で47都道府県すべてに寄贈が完了し、その累計は2万4,153本に及ぶこととなった。この寄贈活動は、同ビデオが文部省選定となったことを記念して、同社支社所在地の中学校に贈呈していくというのが当初の計画であったが、全国規模へと発展した。寄贈は各都道府県の教育委員会へ一括送付され、国公私

立の小・中・高等学校をはじめ、視聴覚センター・ライブラリー、図書館、生涯学習センター等へ配分された。

去る10月31日、これまでの寄贈活動に対して、(社)青少年育成国民会議より表彰状が授与され、記者発表と同時に表彰式が執り行われた(写真)。

このビデオは、日本に古くから伝わる四季折々の習慣や行事の数々をビジュアル化したもの。正月、七草、節分から暮れの大晦日までの伝統行事を一般的な家庭をモデルとした映像で紹介し、日本人の知恵・想い・色・形を伝えている。同社では、今後海外の日本人学校・補習校で学ぶ児童・生徒のために新たな寄贈プロジェクトを予定している。海外の日本人

学校は87校、土日授業のある補習校は187校あり、合計600巻程度を見込んでいる。

なお、同社ではDVD全20巻・テキスト・絵本・おもちゃ等からなる幼児期からの英語教育用教材「キッズイングリッシュ」の開発・発売も開始した。
(問い合わせ) 〒163-0214
東京都新宿区西新宿2-6-1
新宿住友ビル14階
電話03-3343-6541



校協議会では、視聴覚教材の自作を通じた個人・グループの自主的学習活動の成果を発表する機会を設け、視聴覚センター・ライブラリー機能の拡充と視聴覚教育の振興を図ることを趣旨とし、作品を募集する。

入賞作品は、(財)日本視聴覚教育協会が開催する平成15年度全国自作視聴覚教材コンクールへ推薦される。

<コンクール開催日>

平成15年2月15日(土)

午前9:30~

<会場>

宮城県図書館 〒981-3205

仙台市泉区紫山1-1-1

TEL 022-377-8441

<出品部門>

①学校教育録画部門、②学校教育スライド・TP部門、③社会教育スライド・TP部門、④社会教育録画部門、⑤コンピュータ学習ソフト部門

<発表時間>

1作品20分以内。ただし、コンピュータ学習ソフト部門のプレゼンテーションは10分以内。

<表彰>

各部門ごとに、最優秀賞1点、優秀賞2点、奨励賞(若干)

<応募先、応募期限>

各地区視聴覚(教材)センター、各地区視聴覚教育協議会(*各地区ごとに地区審査や地区自作教材コンクールがあり、提出締切日が各々異なるので、各応募先に確認のこと。)

短 信

■平成15年秋の叙勲・褒章で元学視連会長の瀬田氏が受章

瀬田隆三郎氏(元日本学校視聴覚教育連盟会長、元(財)日本視聴覚教育協会理事)は、勲五等双光旭日章を受章された。

■教育メディア関係者合同年賀会(名刺交換会)は平成15年1

月7日に。参加希望者は(財)日本視聴覚教育協会事務局(TEL03-3591-2186)まで。

<日時>

平成15年1月7日(火)

午後2:30~3:30

<場所>

日本青年館 4階 富士の間
東京都新宿区霞ヶ丘町15

TEL 03-3475-2525

<会費>

1名 5,000円

お詫び

■本誌平成14年11月号35頁の「自然史博物館における視聴覚メディアを考える」記事中に掲載した写真2のキャプションに下記の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

(誤) 獣脚類恐竜のディノニクスを……

(正) 獣脚類恐竜のデイノニクスを……